

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

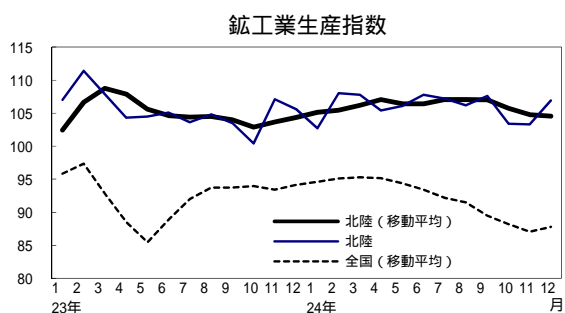
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)	
景況判断	弱含み	下げ止まりつつある	
個人消費	弱い動き	底堅く推移	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、世界景気の減速等を背景として金属加工機械が低調だったこと等から減少した。電子部品・デバイス、引き続きスマートフォン向け電子部品が堅調に推移したこと等から増加した。化学は、主力の医薬品(ジェネリック医薬品)に在庫調整の動きがみられたこと等から減少した。金属製品は、マンション向けのアルミサッシ等に動きがみられたこと等から増加した。繊維は、一部企業の生産設備に不具合があった影響で化学繊維が減少したこと等から減少した。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

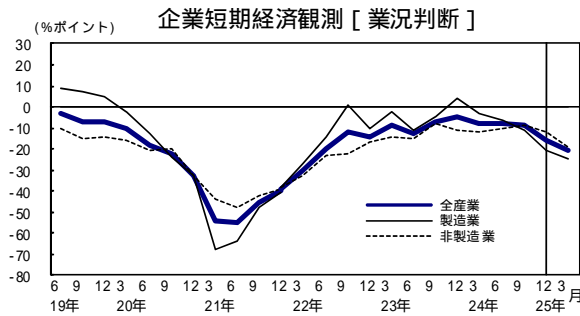
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	16.2	4.1	7.6	-	-
電子部品・デバイス	15.8	11.0	1.4	-	-
化学	14.5	2.0	1.9	-	-
金属製品	9.2	1.0	2.7	-	-
繊維	8.5	4.4	1.4	-	-
鉱工業	100.0	0.6	2.3	-	-

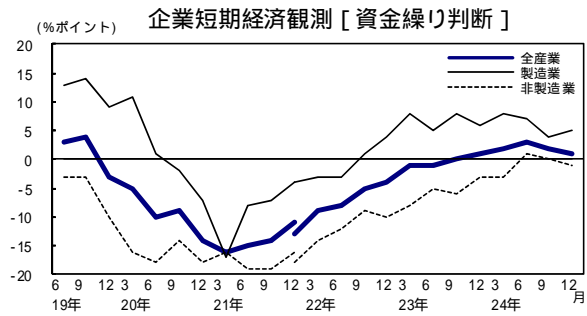
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

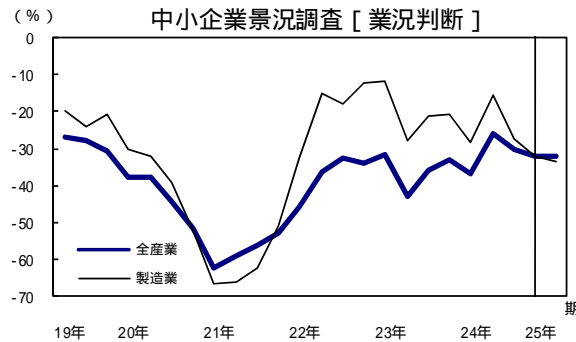
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

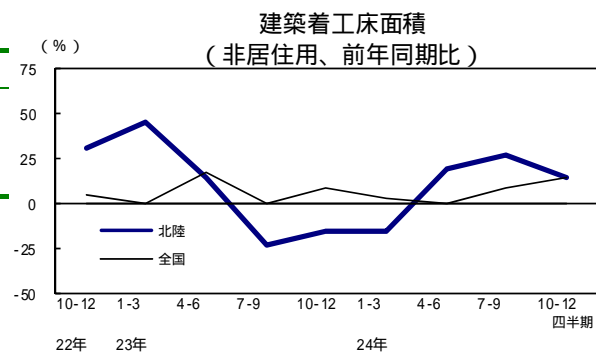
「円高は正で輸出に期待感があるものの、現実の受注はまだまだ厳しい(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	3.3	11.6 (4.2)
製造業	6.5	12.5 (3.8)
非製造業	6.4	8.7 (5.5)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

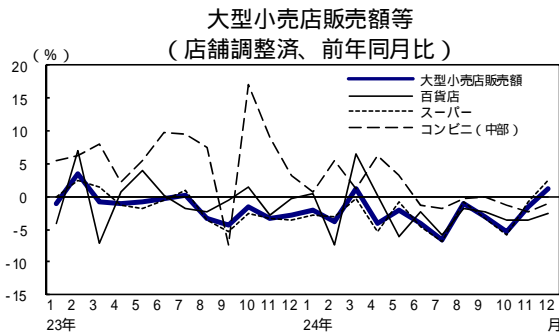
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.7%減、前期比で2.6%増となった。

百貨店は、10月は、気温が高めに推移し、秋冬物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。11月は、気温低下で冬物衣料に動きがみられたものの、催事の開催見直し等もあって前年を下回った。12月は、天候不順で冬物衣料が伸び悩んだこと等から前年を下回った。スーパーは、寒波による野菜価格高騰や、気温低下で冬物商材が好調に推移したものの、天候不順の影響等もあって全体では前年を下回った。

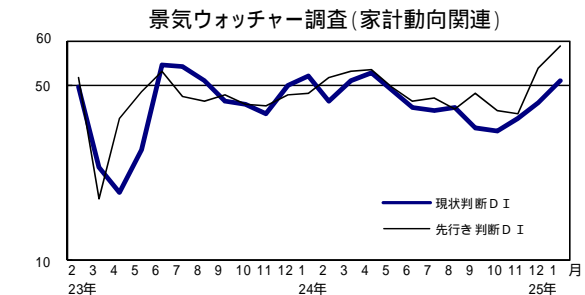
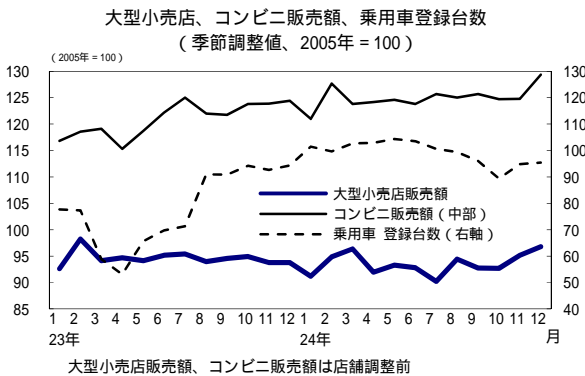
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「冬のセールがスタートしたため、衣料品を中心にバーゲンが好調である。来客数は累計で前年同月比で102%と伸びているが、価格は下がっており、客単価が落ちている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.6	3.4	3.7	1.7
百貨店(*1)	0.0	2.8	3.6	3.3
スーパー(*1)	2.0	3.6	3.7	1.2
大型小売店(*2)	0.6	1.9	2.7	0.8
(季節調整値)(*3)	(0.0)	(1.5)	(0.3)	(2.6)
乗用車(*4)	50.2	64.8	17.7	2.4
(季節調整値)(*4)	(8.0)	(2.3)	(4.7)	(5.6)

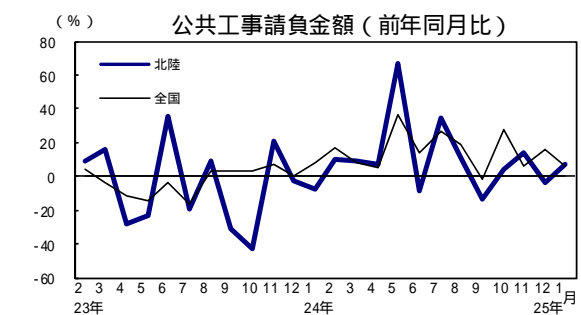
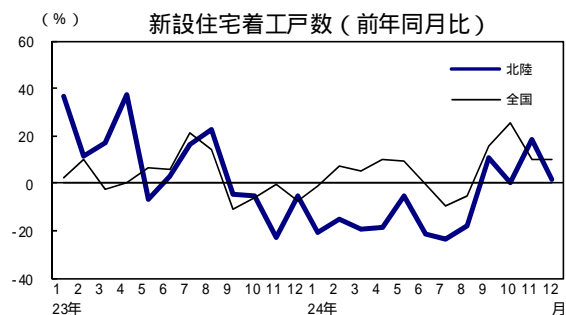
- (備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)、10-12月は速報値
 2. 店舗調整前、前年同期比(%)、10-12月は速報値
 3. 店舗調整前、前期比(%)、10-12月は速報値
 4. 乗用車は新規登録・届出台数
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

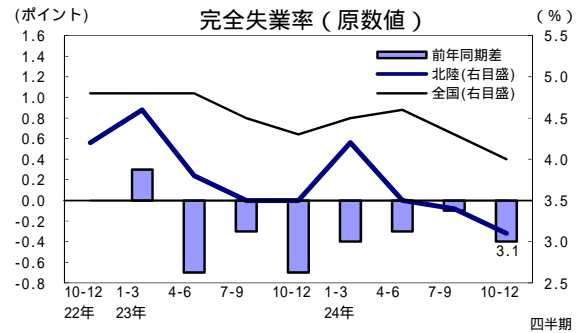
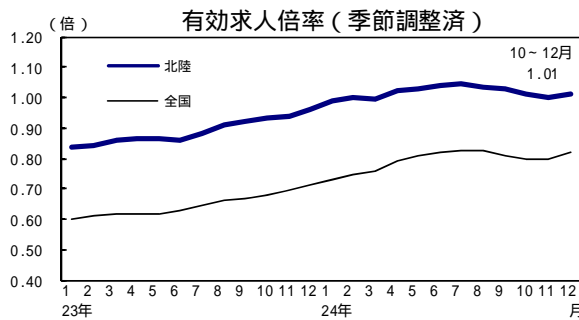


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

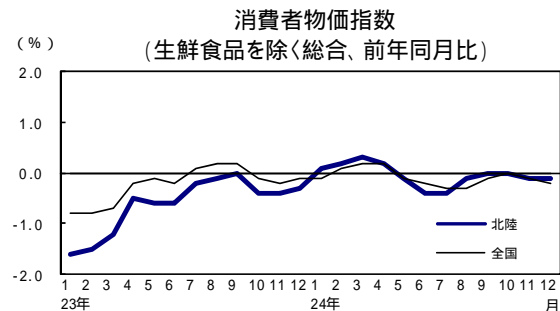
「サービス業、医療や福祉、卸売業や小売業からは常時求人があるが、製造業は依然として求人意欲が乏しい状況がみられる (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	87	78	82	103	31
(前年比)	11.5	27.1	13.9	47.1	29.2
負債総額	184	143	397	1,145	120
(前年比)	6.2	36.0	97.4	381.8	218.7



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 産業資材も住宅資材も動き出しており、活発になってきているという傾向はみられるが、まだ、売上の増加に至るまでにはいかないう状況が続いている (プラスチック製品製造業)。

<先行き>

- 景気が良くなるかどうか半信半疑だった人たちが、前向きに商談に乗ってきた。来年度からの減税や控除も明確になり、消費税率の引上げまで若干の契約増が見込まれる (住宅販売会社)。

